

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

基幹災害拠点病院の地域資源を活用した低炭素地域推進事業

プロジェクト 実施者名	国立大学法人岐阜大学
----------------	------------

妥当性確認申請日 2016年2月25日

プロジェクト登録申請日 2016年3月23日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) コクリツダイガクホウジンギフダイガク
	国立大学法人岐阜大学
住所	岐阜県岐阜市柳戸1番1

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ) カブシキガイシャシーエナジー
	株式会社シーエナジー
住所	名古屋市中区新栄二丁目19番6号

1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ)
住所	

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2~4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

2 プロジェクト概要

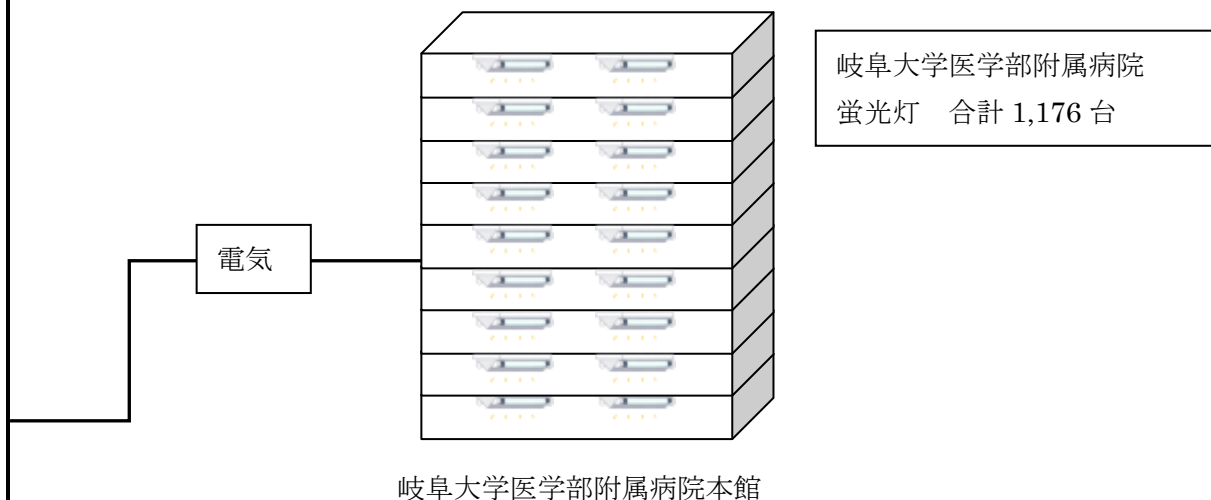
2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	基幹災害拠点病院の地域資源を活用した低炭素地域推進事業	
目的	本事業は岐阜県及び岐阜市の「地球温暖化対策実行計画」に基づく、「民生業務部門のCO ₂ 削減対策」のフラグシップ事業です。岐阜市域の地域資源である豊富な地下水を空調熱源に利用し、地中熱利用ヒートポンプ・ターボ冷凍機、照明設備を導入し、CO ₂ 排出量の削減を行います。	
概要（削減方法）	これまで空調熱源の全てを化石燃料で賄っていたもののうち、約90%（内48%地中熱）を高効率ヒートポンプの運転とし、化石燃料の消費量を低減し低炭素化を図ります。 また照明設備を蛍光灯からLED照明へ更新し、CO ₂ 排出量の削減を行います。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	国立大学法人岐阜大学医学部附属病院
	住所	岐阜県岐阜市柳戸1番1

2.2 プロジェクト実施前後の状況

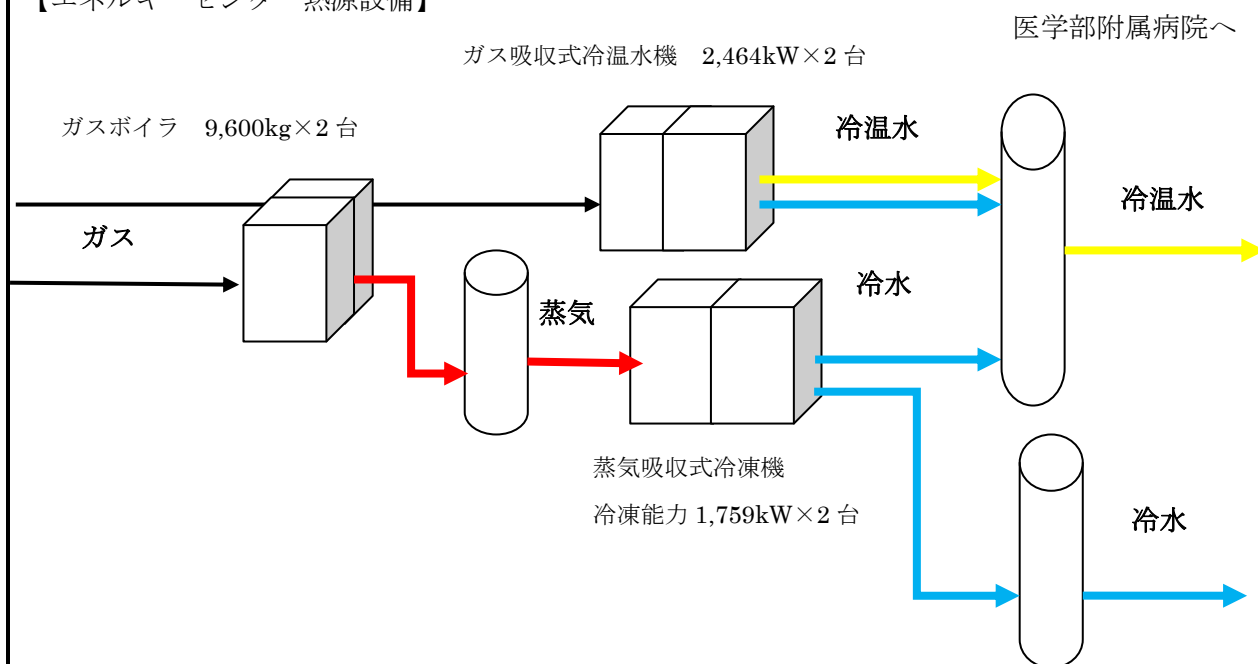
(プロジェクト実施前の概要図※1) :

(照明設備の更新)



(ヒートポンプの導入)

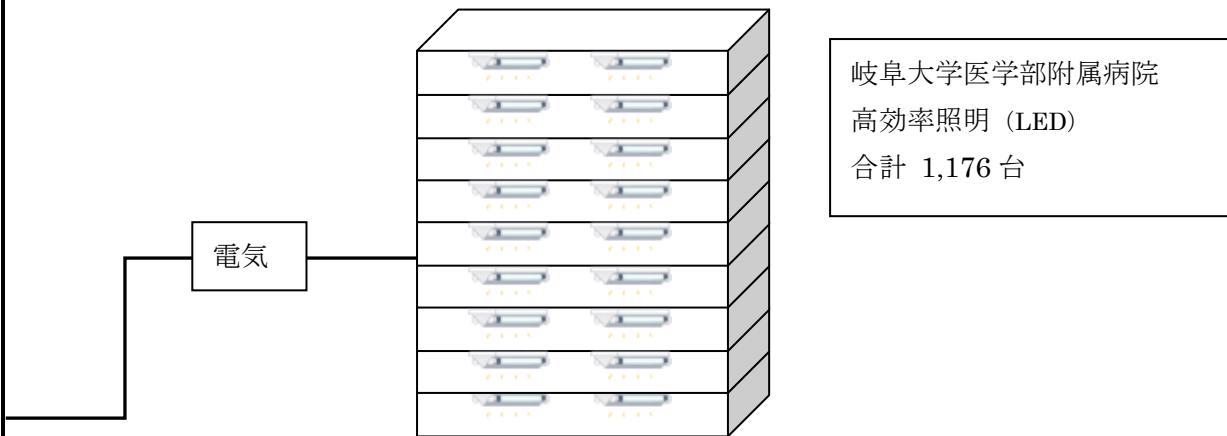
【エネルギーセンター熱源設備】



※1 詳細な設備情報は別紙 (A.1) に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること (具体的な記載範囲は記載例参照)。また、新設プロジェクト又は国内クレジット制度若しくはオフセット・クレジット (J-VER) 制度から移行したプロジェクトの場合にはベースラインとして設定した標準的な設備の情報を記載すること。

(プロジェクト実施後の概要図 ※2) :

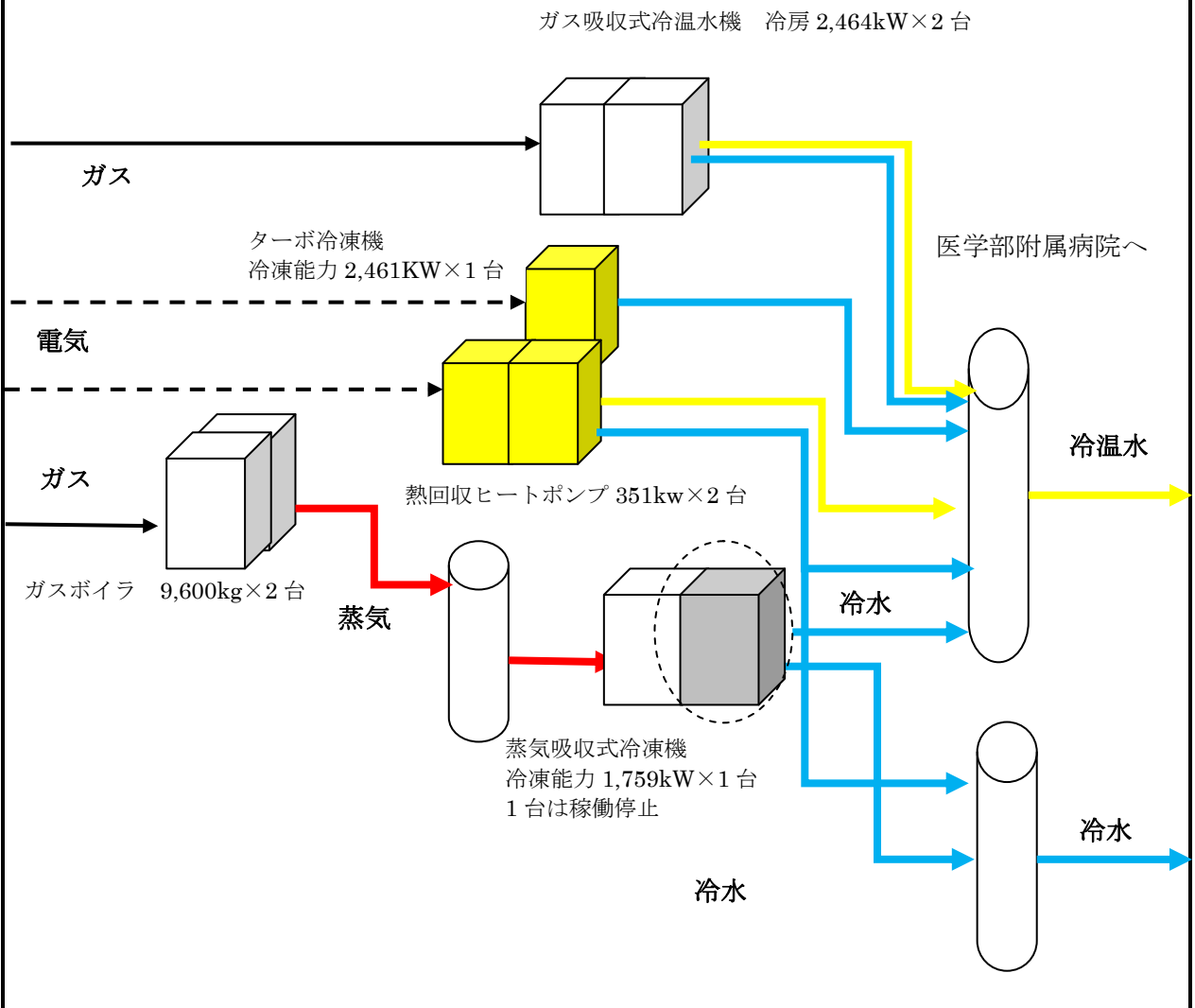
(照明設備の更新)



岐阜大学医学部附属病院本館

(ヒートポンプの導入)

【エネルギーセンター熱源設備】



※2 詳細な設備情報は別紙（A.1）に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること（具体的な記載範囲は記載例参照）。

2.3 プロジェクト要件への適合

プロジェクトの実施日 ※1	■2013年4月以降に実施されたプロジェクトである <input type="checkbox"/> 2012年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認及びオフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録のいずれも受けていない ※2 <input type="checkbox"/> 2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット（J-VER）制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3
追加性	■追加性を有している ※4

※1 「プロジェクトの実施日」とは、設備の稼働日や燃料の切替えを行った日を指す。

※2 2013年度中に限り J-クレジット制度のプロジェクトとして登録申請を行うことができる。

※3 国内クレジット制度又はオフセット・クレジット（J-VER）制度から移行したプロジェクトについては、「2013年4月以降に実施されたもの」という要件を満たしている必要はない。ただし、標準的な設備をベースラインとして設定する必要がある。

※4 追加性評価に関する詳細情報は別紙（A.2）に示すこと。方法論の7. 付記において、追加性の評価が不要とされているもの（ポジティブリスト）については、別紙（A.2）の記入は不要。

3 方法論

3.1 適用方法論

照明設備の導入

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-006 ver. 1.1</u>
	方法論名称	照明設備の導入
更新／新設 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

ヒートポンプの導入

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-002 ver. 1.2</u>
	方法論名称	ヒートポンプの導入
更新／新設 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

3.2 方法論の適用条件への適合 ※1

照明設備の導入

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>更新前の照明設備(蛍光灯)よりも省電力の照明設備(LED)を導入しているため条件 1 を満たす。</p> <p>また①更新前の照明設備の情報が取得でき (1,176 台、消費電力合計 98.58kW)、②更新前の設備の導入日は 2003 年 12 月であるため、更新前の設備の使用期間は法定耐用年数の 2 倍 (30 年) 以内であり、入れ替え時も稼働していたことから故障による更新ではない。</p>
------	--	---

ヒートポンプの導入

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>更新前の熱源設備よりも高効率なヒートポンプ (ターボ冷凍機、熱回収ヒートポンプ) を導入しているため条件 1 を満たす。</p> <p>また①更新前の熱源設備の情報が取得でき、②更新前の設備の導入日は 2003 年 5 月であり使用期間は法定耐用年数の 2 倍(30 年)以内で、継続して運転していることから故障による更新ではない。③更新前後で設備のエネルギー量以外の能力特性が変わらずに、④更新後の設備の定格能力が更新前の設備の定格能力に対して 1.5 倍を超えない</p> <p>よって更新プロジェクトの条件を満たす。</p>
------	--	--

条件 2	■ 適合している	説明 ヒートポンプで生産した冷水又は冷温水は全て自家消費するため条件 2 を満たす。
------	----------	---

※1 記載内容に関する根拠資料や関連情報等について、妥当性確認機関からの要求に応じて情報提供を行うこと。

3.3 モニタリング・算定方法

照明設備の導入

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	照明設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	照明設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

ヒートポンプの導入

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	熱源設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	ヒートポンプの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的	ヒートポンプの冷媒 の漏洩	HFC-134a HFC-R407E	22.4	■排出量の算定を行う

※1 各排出活動の排出量算定方法及び影響度の算定方法については別紙（A.3）に記載すること。

※2 モニタリング方法については別紙（A.4）に記載すること。

4 排出削減計画

照明設備の導入

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ～ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	3.3 t-CO2	1.4 t-CO2	1 t-CO2
	2016年度	135.7 t-CO2	57.8 t-CO2	77 t-CO2
	2017年度	134.0 t-CO2	57.0 t-CO2	76 t-CO2
	2018年度	133.0 t-CO2	56.6 t-CO2	76 t-CO2
	2019年度	132.2 t-CO2	56.3 t-CO2	75 t-CO2
	2020年度	132.2 t-CO2	56.3 t-CO2	75 t-CO2
	合計	670.4 t-CO2	285.4 t-CO2	380 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

ヒートポンプの導入

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ～ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	42.5 t-CO2	25.4 t-CO2	17 t-CO2
	2016年度	1,722.8 t-CO2	1,028.9 t-CO2	693 t-CO2
	2017年度	1,722.8 t-CO2	1,028.9 t-CO2	693 t-CO2
	2018年度	1,722.8 t-CO2	1,028.9 t-CO2	693 t-CO2
	2019年度	1,722.8 t-CO2	1,028.9 t-CO2	693 t-CO2
	2020年度	1,722.8 t-CO2	1,028.9 t-CO2	693 t-CO2
	合計	8,656.5 t-CO2	5,169.9 t-CO2	3,482 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

合計

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ～ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	45.8 t-CO2	26.8 t-CO2	18 t-CO2
	2016年度	1,858.5 t-CO2	1,086.7 t-CO2	770 t-CO2
	2017年度	1,856.8 t-CO2	1,085.9 t-CO2	769 t-CO2
	2018年度	1,855.8 t-CO2	1,085.5 t-CO2	769 t-CO2
	2019年度	1,855.0 t-CO2	1,085.2 t-CO2	768 t-CO2
	2020年度	1,855.0 t-CO2	1,085.2 t-CO2	768 t-CO2
	合計	9,326.9 t-CO2	5,455.3 t-CO2	3,862 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

※1 認証予定期間は、プロジェクト登録の申請予定日若しくはモニタリングが可能となる予定日のいずれか遅い日から 2021年3月31日までの間で設定すること。

※2 排出削減量の算定方法については、別紙 A.3 に記載すること。

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	施設環境部 施設整備課 課長
モニタリング担当者 ※1	施設環境部 施設整備課 課長補佐 株式会社シーエナジー お客様サービス部

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	照明設備の導入 ・モニタリング担当者は、1日あたりの稼働時間をタイマー設定によって把握し、記録・管理する。（常時点灯している箇所は 24 時間稼働）
--------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の稼働日は、外来フロアは診療受付日から把握し（それ以外は病棟フロアのため毎日使用しているため 365 日稼働）記録、管理する。 ・プロジェクト実施前後の照明設備の仕様書等を保管する。 <p>ヒートポンプの導入 （ターボ冷凍機）</p> <p>ヒートポンプの電力使用量を積算電力量計から確認し、記録管理する。</p> <p>（熱回収ヒートポンプ）</p> <p>冷水、熱回収温水、熱回収冷水の水量を定格流量および稼働時間より把握し、記録・管理する。</p> <p>冷水、熱回収温水、熱回収冷水の入り口温度と出口温度を温度計により定期的に計測し、記録・管理する。</p>
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u>2</u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。

※2 原則認証対象期間終了後 2 年間とする。

6 特記事項

6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、ベースライン排出量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。